愛國婦人會機關

愛國婦人

每月十日廿五日發行

(定價)一枚金參錢五厘一ヶ月分七錢三ヶ月貳拾壹錢半年分四拾貳錢壹ヶ年分八拾四錢全國無遞送料郵券代用(壹錢又は五厘切手)一割增
廣告料五號活字一行四拾錢

發行所　東京市麴町區下二番町三十七番地大日本女學會内　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

社說

主人は婢僕の業をも兼務すべし

世が開けるに隨ッて、段々物事が便利になる、汽車がかゝッて歩かないで旅行ができ、水道がひかれて、釣瓶をつり上げないで、水が湧き出るなど、誠に便利であるが、然しながら、一方から考へると、斯樣に身體を勞しないで用事が辨じる樣になッた爲に、人々の運動が不足になッて、身體の弱い人が多くなる樣である。世の開けるに隨ひ、此點に向ッて大に注意せねばならぬと思ふ。徒らに文明の利器にたよッて、用事を辨じ、身躰の爲を考へないで居ると、竟には人間が何んなに弱くなるかも知れない。されば此弊を受けない樣に何か特に方法を設けて、運動を務めねばならぬ。故福澤先生は、運動の爲に米を搗かれ、大隈伯は木を挽かれる。是等は人々の鑑むべきとである。

勞働社會は麁末な食物を用ゐて居りながら、比較的身體が丈夫であるが、中流以上の人は、良い食物を用ゐながら、比較的身體が弱い、是れは云ふまでもなく、運動不足に基くのである。價の高い滋養に富んだ食物を用ゐながら、運動不足の爲に十分に消化せず、其大部分は何の用をもなさないて、身體を通り越すのである、所謂天物を暴殄するものて、實に不經濟の極である。食物を地面に棄てるのと同じとである。

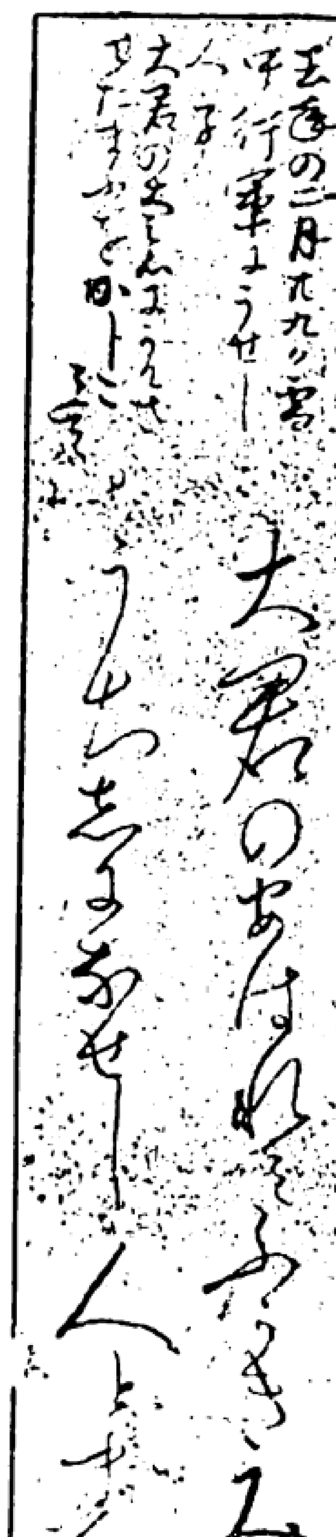
殊に日本には、惡い風習がある。旦那といふ者は、何から何まで婢僕を使役して、自ら手を下さないものとなッて居る、咫尺に在る物を取るにも、婢僕に命じて持ッて越させるなど、竪の物を横にもしないのが旦那らしいといふ風習である。先づ第一に、此惡習を改めて、自分てできる限りは、婢僕の手を煩さない樣にしたならば、其れだけても餘程運動の助けになるてあらう。世間の主人たる人々が婢僕の業をも兼務して居る心得てあッたならば、單に身躰の爲のみならず、種々の利益が得られるてあらう。

◎軍艦淺間航海記事　其四　(禁轉載)

相談役　海軍少佐子爵　小笠原長生

英國と婦人とは、深き因緣のあるやうに思はれまする、遠き昔時に於ては、エリザベス女王て、其前迄は英國の外交政略は、毎に退守的て、從ッて其海軍も殖民地を取るとか、進んて敵國を威嚇すとか云ふことは爲さずに、專ら自國の海岸を守ることに務めて居たのが、エリザベス女王の時代から、遽に活動しはじめて、殊に西曆千五百九十五年、西班牙艦隊が來襲するとの風說のあッた時などには、女王親ら蹶起して、艦隊を組織し、我より進んて、西國ケーヂス港を攻めて、港内にある敵艦隊を殆んど殄滅した程てある。其他、千五百九十七年には、英國史中に最も有名な海軍將校ウヲルトル、ラレーが、フハイヲール島を取り、翌年にはカンブルランド侯が、加奔利諸島を取り、千六百二年には、再び西國艦隊を擊破した。女王の意氣斯の如く盛んてあッたから、從ッて、國民の元氣も頗る振るッて、米國に英國殖民地の出來たのも此の時代てある。

近くは、先帝ヴィクトリヤ女皇陛下で、國民の追慕し奉ッて居ることは、實に赤子の慈母に於ける如きありさまて、此の女皇の御德望は申す迄もなく、如何に英國の品位を進め、又世界の人類に幸福を與へられたかは、今更喋々するまでも無い事てある、即ちエリザベス女王の時に、英國は一進歩をなし、ヴイクトリヤ女皇の時に、復一進步を爲して居る。殊にヴイクトリヤ女皇の御行跡は、實に世界婦人の龜鑑である。東洋にも。婦人に英明の方が無いでもない、支那の呂后、朝鮮の閔后、我朝の政子等は、頗る才女には相違ないが、婦人に最も尊むべき、淑德、溫和、言ひ換れば、浮世の冷酷な空氣に、慈悲の雨を下して、篤き同情の淚を、不幸な人類に注ぐと云ふ、高尚優美な思想は、果して完全であッたであらうか、私しは、全然同意することは出來ませぬ。こゝに至ると、實にヴイクトリヤ女皇陛下は、眞に敬服のほかは無い。彼の英邁俊豪なる、獨逸皇帝ですらも、女皇の前に出らるゝと、頗る謹愼されて、心から服して居られたとの事であるが、之は決して女皇の才氣や、手腕の致した所では無くて、大慈悲心より發揮する、靈妙な威德の然らしむることと考へられる。從ッて一般の婦人社會も、亦之かために感化せられて、他國の婦人に比較して見ると、一段高尚な氣風となッて居ります。



評議員中山幸子筆

我國に於ても、亦始めて舟師を率てゐ、遠く海外を征し、國威を外に輝かされたのは惶くも神功皇后陛下てある。此の遠征のために、我權力を、韓國半島に樹立することが出來て、其後殆んど五百年間、三韓を統御し得たのは、一に皇后陛下の御偉業に因るので、此の時が、我帝國々權の一大發達をなした、動機でござりました。さて陛下が愈よ三韓征伐に御出發になるときの、軍令は有名なものであるが、實に陛下の大慈悲心が發揮せられて居ります、曰く、奸暴なる者は赦すなかれ、降服するものは殺すなかれ。……なんと難有い御心ではございませぬか、敵地に入ッて亂暴でもするものは、赦さぬ、また降服したものは敵兵でも、決して慘酷な目にあはすなとの令てある。此の聖德があッたらばこそ、易々三韓を征服することが出來たので、新羅王が降ッた時にも、血氣に逸ッた將士等は、之れを誅せんと願ふたのを、陛下は御聽にならんで、縛を解いて釋して御遣しになりましたのは、申すも惶いことにてあるが、何處迄も慈悲を基と遊ばされた、大御心と推察し奉るのである。

之れを見て、此の度日英同盟が出來たのが、何にか神意でもあるやうて、偶然では無いと思はれます。其處て、現在の兩國婦人社會の氣風を比べて見ると、果して何れが優ッて居るであらうか。勿論、從來の敎育法が異ッて居ッて、どちらにも長所と、短所とがあるから、輕々しく優劣を定むることは出來ぬが、殘念ながら、今の所では、どうも英國婦人の方が、優ッて居る點が比較的多くはあるまいか。斯く申しても、私は決して、英國に心醉して高襟的に立論するのではござりませぬ、御承知の通り、私は同じ日本人中でも、御婦人に御挨拶するさへ甚だ不得手な程て、況や英語は不熟練だし、外國婦人との交際は頗る迷惑て、艦中ても、小笠原は偏屈てあると、同僚から云はれて、遂に義和團などとの異名を付けられたのでござりますから、實を申すと、凡て日本婦人の方が、優ッて居ると申したいのは、山々てあるけれど、實際英國婦人の氣風には、感服せざることを得ぬ點が澤山ござりますし、就中、幾度も申上げるやうてあるが、進取的慈善心の發達てある。

これから先日我が政府より勳章を贈られた、マクリーン孃……孃と申しても、六十餘歲の老婦人てある、未だ良人を持たぬから孃てある、其のマクリーン氏が我が水兵のため、一通りならぬ深切を盡した事を申します。

明如上人の遷化を悼みて六字の名號を頭に置きて詠める

樞密顧問官　藤原　正風

南みたより外の手向けはなかりけり　只ありし世の思出られて
無らきもの心はかりと思ひしを　身さへ空しくなりし君かな
阿ま雲のよそにすまはすなきからに　あひて別れをつけましものを
彌るたびに袖ぬらしけりなき人の　かきなかしたる水莖のあと
陀れも皆つひに行へき道そとは　あからめなからなほも悲しき
ふみたかひ何れいにけん敷島の　道をのみこそ行くと見えしか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論説

◎女子と慈善事業

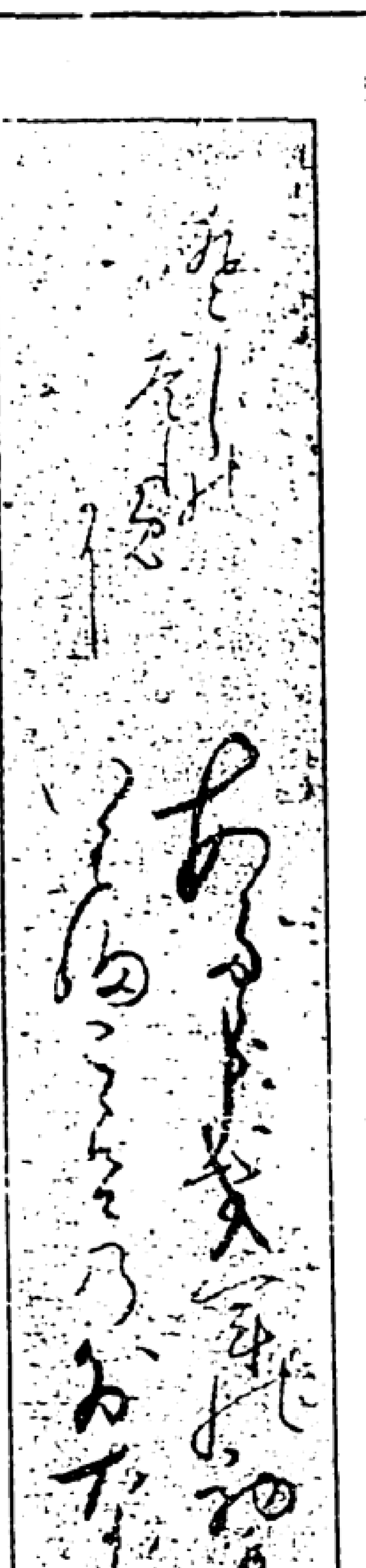
東京美術學校長　正木直彦

慈善事業は、實に女子に限るのであッて、男子が行ッたのでは。感化が薄いが、女子が之に從ふと非常に能く行はれる、何故かと云ふに、女子は大變同情に厚く、喜ばしいことがあれば倶に喜んでやり、悲いことがあッたら、倶に悲しんでやり、又總て他人のことを思遣る力が非常に深うございますから、それで女子は慈善の事柄に就ては、自然にそれを天職として生れて居る者と見へまして、女子が慈善事業を行ふと、深く世間の感動を惹起し、又それに依て、男子の同情を喚起すこともある。故に、慈善の事柄は、どうしても女子が卒先してやらねばならぬ、又女子が卒先してヤッたならば、必ず成功することである。是は、畢竟前にも申上げました如く、女子が同情に富んで居ると云ふ點から、起るのであるやうに思ひます。此慈善の事柄と云ふものは、何れの國でも、昔から多少あるものでございますけれども、我國に於きましては、畏れ多くも皇后陛下が、同情の深き思召をもちまして、此慈善の事を御勸奬遊ばされて、屢々、病傷兵士を御見舞になり、或は御手づから遊ばされた綿撒絲を賜はると云ふやうなことは、實に如何ばかり世間の貴婦人、又は男子に感化を與へらるゝてありませうか。陛下が御見舞遊ばされると申しても、悉くの病傷兵士を、御見舞遊ばさることはなく、又綿撒絲を賜はるとても、さう澤山に御手ら遊ばしたものがある筈はない。けれども、其同情に富んで居らせらるゝと云ふことと、それから、其外の思召と云ふものが、難有いと云ふので、他の貴婦人令孃等が、奮發し、それに依て、どの位外の者が感激したか、難有いと思うて其思召に感泣する所が、非常に及ぶ所廣しと云はなければならぬ。それてあるから、社會一般の、例へば、旱天に萎んだ草木の葉に、雨露が普く降りかゝる如く、其及ぶ所は頗る廣いのであります。斯樣な力と云ふものは、男子では迚も有つことが出來ぬ、是は女子の特有と云ふべきものであります、殊に、大小こそあれ、日常の事柄に就きましても、總て女子の有する所の同情の力と云ふものは、十分推擴めて、さうして其天性を全うし、且つ、其力を利用して、社會を緩和すると云ふ心掛は、一日も忘れてはなりませぬ。斯樣な事柄は、別段、歷史等にも載らぬ事にて、殆ど縁の下の力持みたやうな事柄でありますが、社會の進歩は、表面斗りの事でなく、此裏面の勢力と相俟て進歩するものでありまして、即ち力と云ふものは、誰が主宰するかと申せば、女子でありますから、女子は其天然の勢力を利用して、此社會の進運を大いに助けねばなりませぬ。

◎歐米家庭教育及び女子風俗の現況

文學士　下田次郎

私が日本へ歸りまして第一に感ずるのは、女子に趣味と云ふ教育が足らないことである。西洋ては音樂と云ふものが盛んでありまして、家庭に於ても中等以上の所にはピヤノが据附けてあり又唱歌を遣ります、職工の家內でも夜分など歌を謠ひ音樂をして樂んでをるものもある。所が日本には何もさう云ふ樂みが行渡らない、又教育が足りませぬから話をしても解らない、解らないから良人が家に在ッての樂みも誠に少くなるので、自然外に出て樂みを求めるやうになります。獨逸あたりでも矢張り家庭に樂みの少い者は料理屋などへ往ッて、麥酒を飲んで夜更しを爲し、細君は遲くまで家にまッて居ると云ふ如き者が澤山ある。其の源因として即ち良人が家に在ッて愉快を感ずるやうになれば自然外にも出なくなるのだが、畢竟妻たる者に素養が無いからして、樂みを外に求めるやうになるのである。下等社會の如きは別してさう云ふ風の素養が足らないのであるから、勞働をして居る女工などにも、趣味のある教育を施して一家を面白く愉快に樂しめるやうにしたいものであると云ふやうな説を主張し又實行して居る人がありますが、日本などに於てもそれが必要であるので、音樂を始め唱歌とかピヤノとか云ふ美術上の嗜みと云ふものが大切である。又床の間に掛物が懸ッて居ても、誰の作か一向に細君は知らずに居ると云ふやうてはいけない。西洋の學校に往くと、希臘羅馬以來の名畵或は彫刻の傑作の摸寫を廊下なり教場なりに貼附けて、日常美と云ふものの感じを受けつゝある。又歷史上縁由のある畵などを懸けて、教場は何所となく賑やかで趣があります。日本に歸つて見ると學校の教室內は空屋の如く一物もない、唯壁を見るだけであッて、教場に於て感じ得るものは何にも無いのであります。是れは學校の設備上裝飾上の一ツの大缺點であると思はれる。日本では學校を卒業すれば、之れが女の行止りてあッて、それより退くとも進むことはないのてある。然るに西洋には種々の集會があッて講演を聽いたり、或は音樂會があッたり、博物館美術館に行ッたり、詰り學校を出だ後にも百般の方面に於て見聞を博くする機會が澤山にあります。又新らしき出版物或は雜誌などを、轉讀する組織の會があつて、僅かの金で互に廻送して、順々に見たり讀んだりするやうな事もして居るけれども、日本には斯う云ふ會も無いやうてあるし、總ての集會が發達して居らないから、學校を出ると夫れぎりになッて仕舞ふ。要するに、日本の女子には、娛樂の種類が少くて、氣を慰めることが出來ませぬ。殊に、中等社會の女子の如きは、殆ど始終家の內に在ッて、家事に追はれ、又其他の事務のために、營々として居ッて、ちッとも、餘裕と云ふものがない。日本の下等社會になると、なかなか女の權利が強くて、男が遊べば、女も寄席に往くとか、芝居を見に往くとか、致しますが、中等社會になると、男は外出をする儘に放任して、女だけが家內にすくんで、年中不愉快の生活をして居る、故に、中等社會の女が、一番私は氣の毒の點が多いと思ふ。どうか、も少し慰めの方法を與へて、愉快にせしめねばなるまいと考へる。それも、一つには、良人たる者の、細君に對する觀念が、間違ッて居るのであらうと思ふ。併し、外國の女は、教育は發達して居るが、女としての、チヤーム、即ち、愛嬌と云ふものが乏しい、日本の女子は、笑を傾けて、如何にも愛すべき性質を有して居ることを感じます、外國の女は、如何にも、引緊ッたやうな顏色をして居るが、愛らしいと云ふ點は見られぬやうに思ひます、是れは日本女子の特質と云うて宜しい。



評議員有島幸子筆

谷春氷　理事　公爵夫人　近衞貞子

さえかへる嵐にまたもこほりけむ
音せすなりぬたにかはのみつ

子の日友　理事　侯爵夫人　鍋島榮子

けふのこの子の日の小まつともとして
雲かゝるよもきみはみるらむ

同　評議員　南鄕柳子

初春の初子はけふとうなゐ子も
友引つれてのへにゆくみゆ

和氣清麿　評議員　侯爵夫人　蜂須賀隨子

光ある神のめくみの露うけて
あしたの庭をきよめしはたそ

雪　評議員　中山幸子

こゝのへのみやこもけふはふる雪に
こしのみ山とみゆるなりけり

此としの秋のみのりもこの雪の
つもりしほとの新米や見む

ふる雪に松のした草うつもれて
まはらにみゆるふきの花かな

初春霞　東京　會員　佐藤艶子

きえのこる尾のへの雪もさなから
霞みこめたるあさほらけかな

雪ふりける日青森聯隊の雪中行軍の大慘事を思ひ出てゝ　兵庫縣　會員　某

ふる雪にいとゝなけきのまさるらむ
ますらたけをのうからやからは

いかならんつもる深雪にいとし子を
うつめはてたる親の心は

をさな子に涙かくしてもものかたる
母もやあらん雪のふる夜に

奧村女史をよむ　東京　會員　柴田つね子

君か身は梅にたとへてしからまし
雪をさゝへてにほふ花か香

新年海　東京　會員　榮木きよの子

さゝなみの音ものとかに年立ちぬ
かはらぬ色の見ゆるうなはら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人傳

松尾多世子の傳（承前）

評議員　下田歌子

斯くて後、多世女は諸有志が大方ならぬ心づくしにて、兎角して危難を逃れしめられしこと、既に數回なりしかども、追捕の沙汰は日々にます〱嚴しくして身は恰も網の中なる魚のごとく、到底つひに能く免かれ果つべうも覺えざりしかば、萬一の時の爲にとて、兼ねて平素の衣服襯衣等まで淸らかに潔く整頓し、亡からん後に殘るべき調度どもさへ、見苦しからぬさまに取りしたゝめつゝ草の葉に置く露の命の、消えなんことは、さらに〱惜しとも悲しとも思ふべきにはあらず。もとより君の爲國の爲に身を致さんと覺悟して、故國の山は立ち離れつるからに、わが夫もまたわが志をよみして、家をな顧み思ひそとのたまはせたりし程なれは、今我れ捕吏の手にあひて刑の場に血を流すとも、必ずめゝしくは歎き給はじ。又何とて男さびする暴ましきふるまひして、悲みを家族に殘しつるぞとも、咎めたまふことはあらじ。さりながら思へば我身女子と生れ出でたるなれば、其本分より云ふ時は、閨の裡にかき籠りて、夫に事へ子を育み厨房のわざ、裁縫のこと、養蠶、紡績いたづきにこそ、わが世はつくすべかりしものを、なまじひに習ひ覺えし皇學に將門の跋扈を憤り、武士の僭横を憎しと思ふ思ひは、つひに消ずる期無く、程は雲井に仰ぎ見る、雲間の月の影ほのかにも、民の草葉に洩れ出でゝ、志士が進路のあかしとなりぬる時こそ來つれと思へども、皇室の御稜威未だあまねからで隔ての雲と立ちさまよふ、幕臣の手におほはれつゝ、思ふ心をいへばえに、岩もる水の下にむせびて、御垣の外に血に泣くらん、勤王の士に力をあはせて、いかで皇恩の千々の一つにも、報い奉るよすがもと、猛き志はもちながら功なほ成らず績いまだあがらざるに、空しく獄舍の土と化し、祭られぬ鬼となりなんことといと口惜しき限りなれども、今更にまた何とかすべき。鷹の翅にたぐへても、告げまくほしき言の葉は濱の眞砂の數よりもなほしげゝれども、さては中々に罪も無き夫の上に煩ひを及ぼし、且つは子どもに咎をや負ふせん。あゝ我れながらこの期に臨みて、徒らに物を思ふは益無し。死後の恥辱を殘さぬ爲に、汚れたる衣を解き洗ひ、亂れたる者取りしたゝめて、しづかに最後を待つこそよけれと、胸に問ひ胸に答へて、忍び〱に居室の中なる、何くれの調度ども又更に取り整へ、身のまはり淸く正しくして、恥ぢかゞやかしからぬやうにとぞ用意しける。

◎砲丸の味

海軍大尉　長尾耕作

（理事侯爵夫人鍋島榮子筆）

妙な表題でありますが、私が日淸戰爭中に砲丸の飛ぶ場合に居ッたことが三回。第一回は廿七年八月の威海衛の砲擊、第二回は黃海々戰、第三回は旅順陷落の際であります。元來私は決して剛膽でないことは自分に知ッてゐます、寧ろ私は怯懦と申すのでありませう。しかし軍艦の中では何れに匿れたとて仕方がありませんのと、私の戰鬪中の受持ちが、どうしても艦橋上に居なければならなかッたのとて、砲丸の味を覺えたのであります。怯懦な私の感じてありますから、豪膽の人には定めて笑はるゝことゝ思ひますが、私は實際の飾りなきお話をするのであります。

威海衛の砲擊には何しろ始めて敵に向ふのでありますし、又陸戰隊を編制して上陸でもする意氣込でありましたが、八月十日午前五時半砲臺の前に來たときには、なか〱敵の海岸に上陸するどころではありませんでした。と申すは港內に軍艦は五六隻しか見えませぬが、砲臺は早くも砲口を開いて我が二十一隻の軍艦を歡迎して打方を始めました。そこで七八千米突以上の距離でありましたが、みかたも應砲をしました。みかたの彈丸は敵の海岸迄も達しませんけれども、敵の彈丸は善く我が艦隊の列に近く落下しますし、又一層夫れより遠く、艦隊を飛び越えて落ちます。私は始めて砲丸の飛び來る下に立ッて見ることが出來ましたので、彈丸がシューッと空中を飛ぶ勢、其飛ぶ有樣、水に落ちる有樣を目擊しましたが、更に恐ろしいとも何とも思ひませんでした、砲擊時間は極めて短かく、間も無く各艦は根據地に引返へすとなりました。是が第一回の經驗で、未だ砲丸の味は分らなかッたのであります、一寸膳の前に坐ッて箸を取ッてお止めにしたのでありました。が此時の砲擊の結果から、シューッと云ふ音を聞いた時には、彈丸は最早水に落ちるか、他の方に飛んだかの二つの中であるとを知ッたのであります。

第二回は黃海の海戰であります、最初敵の煙を見ましたときは一同非常に喜びましたくらゐですから、元氣は勿論盛で恐怖といふ念は固よりなかッたのです。段々と近よッて敵が彈丸を打ち出したときの距離は六千米突でありました、始めの間彈丸は一つも自分の軍艦の附近には來ませんでしたが、それが飛んで來るやうになッた時は、此方からも打ち出したので、自分の職務が出來て來た上敵には火災を起した軍艦もあり、揚威・超勇の如きは早くも逃げかゝッたのでありますから、それを見るに氣を取られて、「ポッン」「シューッ」と音がして、漸く敵の彈丸が煙突に當ッたとか、水に落ちたとかいふことを知ッたのです。艦橋上には、私と信號長と信號兵と都合三人がをッたのでありますが、信號兵は四五ヶ月しか練習を受けない新兵でありました。彼は時々定遠や鎭遠から打ち出す巨砲の煙を見て、鹿兒島言葉で「盛んなしチー」とか「チューストー」とか云ッてゐました、無論恐怖心などは更に認めなかッたのです、否双方から烈しく打ち出す時には、何しろ無我夢中でありまして恐怖の念の起らないのは至當であります。又實際反對舷即ち敵の居ない方に居ッて發射をしない砲員でも、敵艦が砲烟に包まれてゐるのを認める間は、どれがどう向かッて打ッたか明らないから、彈丸がその附近に來る迄は無論何も知らないのと同樣であります。　（未完）

◎泰西美談（一）

藤のや主人

○少女の愛國心　西暦一千八百十三年に佛軍が普國へ侵入しました時には之を擊退けんが爲に普國の人民は個々別々にあらゆる手段を盡して軍費を補助し、知らず識らず擧國一致で働いたのでありますが、次の話も其時の民情を示す一適例であります。

シレシヤ州の一少女は其隣人知己の甲乙が、何れも多少の資を獻じて、軍費の一部を補助したと申しますのに、自分獨りは其資金を得んとて賣却すべき品物もありませぬので、非常に心を惱まして居ましたが、不圖胸に浮びましたのは、自分の頭の上の黃金色の髮毛の事で、其色の美さは兩親が常に自慢する所でありましたから、幾許か錢になるだらうと考へつきました。で、早速或朝、窃にブレスローと云ふ町へ行きまして、首尾よく其髮の毛を二弗斗りに賣り拂ひまして直に其金を獻納致しました。然し、かもじ屋は其時此少女の言分を聞いて深く感動しましたので、此髮毛をば普通のかもじには用ゐないで、他の高尙な髮飾の原料と致しました。ところが此話が廣く世間へ響き渡りまして、此髮毛の入ッて居る髮飾は非常に澤山に且つ高價に賣れましたので、かもじ屋は大變な儲を致しました。遂に此かもじ屋は此一房の髮の毛のお蔭で、數百弗の大金を軍費の一部として寄附したと云ふとて在います。

◎

物ごとに儉約をまもるが第一の陰德なり、金錢を吝しむとにはあらず、行住坐臥につけて儉約を守るべし、たとへば喰ひ果さぬ食物は箸にけがさぬがよし、箸にけがさば人之を喰ずして捨るゆゑ德を破るなり。呑果さゞるものも口をつけぬがよし。紙をつかひ水をつかひ炭をつかひ燈火をともすにも、無用に費さぬ樣に心をつくべし。されど、人に薦る物には然るべからず、自己が心もちゐは、必ずこの道理を辨へ知るべし。（高田與淸著、積德叢談）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

◎家政要領

家事衛生　食物

一、人は身躰の外部を衣服家屋にて衛り、其内部に食物を攝ッて生活するものなり。斯く必要なる食物が、動もすれば身躰に危害を及ぼすことあり、即ち食物の不良なる時、又良き食物にても食ひ過す時、又食物中に毒物・傳染病毒・寄生蟲等の混入せし時なり。故に食物は衛生法中最も注意を要すべきものなり。

一、禽獸蟲魚は多くは衣服家屋を要せざれども、食物に至ッては、人間と同じく之を要せざるは無し。然るに、人は智力著く發達せるを以て、飲食の上に付いて、他の動物と異なること甚だ多し。

第一　人は他の動物の如く、毎日同じ形狀の物を食する時は、厭惡の念を生ず。

第二　人は多くは火食を用ゐ、生食を嫌ふ。

第三　人は無味淡泊の物を厭ひ、芳香美味等の具れるを嘉すれども、獸類などは、それ等の必要なし。

第四　人は食物の外觀不潔、又は惡臭ある時は、之を食ふことを欲せざれども、獸類は如何に不潔惡臭ある物にても、榮養だにあらば、之を食し得る便利を有する者あり。

第五　獸類は色・味・臭氣等にて、毒になる食物を辨識して取捨することを得るが故に、身躰を害する物を食ふこと少なけれども、人は智力ある爲に、却ッて其色澤・香氣に迷ひ、有害の物を食することあり。

第六　人は腦力の發達せる代りに、胃膓の消化力は獸類などより大に弱し。稍腐敗せし物にても、獸類の胃には無害にて消化す。

一、人は食物の上に不便多ければ、智力を以て之を補はざるべからず、即ち煮燒して味をつけ、日々の食品・形狀を變換し、貯藏法に由て腐敗を防ぎ、以て嗜好に適せしめ、消化を容易ならしむる必要あり。

◎家計收支の實況

姫路市　愛讀者　報知

前文御免下され度候、扨私の家計收支申上るも御はづかしながら御笑草までに御報知申上候毎々貴樣の御拜見致し誠に御心懸よき御方々と感心致し申候夫々に拜見致すのを樂しみに致居候

一家族　五人　但し夫・婦・男兒一人(高等小學四年)女兒二人(一人は尋常小學四年一人は五歳)。其他雞五羽　犬一匹　猫　一匹

一收入金參拾參圓七拾五錢　但し恩給年額四百〇五圓

一支出金貳拾九圓四拾七錢五厘

内譯

七圓四十錢	米代	五圓	八百屋味噌酢砂糖等共
六十錢	雞餌料代	卅七錢五厘	醬油三升
貳圓	牛肉魚類	卅錢	烟草
壹圓五拾錢	木炭	壹圓	市税所得税月割
壹圓五拾錢	酒代	參圓	雜費
貳圓八拾錢	保險懸金	卅五錢	男兒授業料
拾五錢	女兒授業料	六拾錢	三兒貯金
五十錢	女兒學月謝	四拾錢	男兒稽古料
五十錢	交際費	壹圓五拾錢	被服料

差引殘金四圓貳拾七錢五厘(尤も八月十二月は殘金無し)

家賃は自宅ゆゑ入用これなく、主婦の髮は自分に結び申候、序ながら當姫路市の諸物價を御報申上候。

上白米一升　十五錢五厘　地の甘藷一貫目　七錢　味噌壹貫目卅二錢　半紙一束　十八錢より廿五錢まで　塵紙壹束　八錢より十錢まで　ひきわり一升　八錢　中等醬油一升　十五錢　上木炭拾貫目　壹圓十錢　まき拾貫目　壹圓二十錢　疊廿四五枚しき屋敷住ひ家賃　五六圓

評　五人暮しに餘りある恩給を有せらるゝを以て推せば、勤務中は多額の俸給にてゆたかなる家政なりしならん、斯く豐なる家政を一變し、下婢をも置かず、自ら髮をも理め、勤儉を勵みて子女の教育を督せらるゝ、一般文武官夫人の好摸範といふべし。かゝるいみじき配ある主人は、已に國家に功勞ある人たるを明なりと雖も、其子女の尙幼なるを以て見れば未だ老年ならざるべし、何か事を執りて子女教育の資を積み給へかし、よし既に貯蓄に十分なりとするも、徒らに身を閑散に處くは、腦漿の涸渇身躰の老衰を速むるの虞あり。蓋し遊般の人誰ぞ斯る道理を知らざらむ。思ふに金錢の報酬を受けずして、國の爲世の爲に事を執りつゝある人ならん。果して然らば、此主人亦一般文武官退職者の好模範たるべし。

各地特殊の料理

本誌主幹が管理する、大日本女學會々員より、各地に於ける特殊のめづらしき料理方を募集せんことを企てしに、やがて左の數種を得たり。得るがまに〱掲載すべし。請ひ願くは、本誌讀者の君達よりも陸續投書あらんことを。

(一)柚子大根　廣島縣加茂郡　某報知

此度各地方の特殊の料理を報知せよとの會告がありましたが、是れは誠に面白くて、而も有益な事と考へます。居ながら各地方の珍味をいたゞくことが出來て、家庭の和樂を助ける一方法と思ひます。就ては皆樣のを拜見いたしたいから、私よりも一つ御報知申します、併しながら、此柚子大根は餘り珍味と申す程ではありません。是れは大根と柚子との三杯酢ですが、簡單な割合には一寸おいしいものです。其作り方は、大根の皮をとり、厚さ一分位の輪切にしまして、(大きな大根ならば二つ割・四つ割にして、櫛形なり銀杏形なりにします。)擂鉢などに入れ、食鹽を少しふりかけて、輕く交ぜ置き、さて柚子を輪切に、成たけ薄く切り、種子を去り置き、前の大根をざッと洗ッて水をきり、其上へ柚子を並べ、醬油・味淋・砂糖などよきほどに入れ、輕く壓し置くのです。一晩で漬きます。漬頃に用ゐて仕舞はないと、日が經つに隨ッて苦くなります。而して柚子と大根との割合は、人々の好みに由りますが、大抵柚子を大根の三分の一か、五分の一位でよからうと思ひます。是れは酒の肴にも飯の菜にもなりますが、精進ですから、法事の料理などに適當です。

(二)鯒飯　岡山市　某報知

鯒を湯煮して焙爐にかけ、乾して碎き、即ち田麩にする樣にボロ〱にして、味をつけないで置きます。別に椎茸・葱など、好みに從ひて、鰹のだし汁をこしらへ、熱飯を椀に盛りたる上に汁をかけ、其上に鯒をボロ〱にしたものをふりかけて出すのです。鯒に限らず、鯛でも魴鮄でも、腥くない魚ならば、何でも宜しいです。焙爐にかけるのが面倒ならば、擂鉢に湯煮をした魚肉を入れて火にかけ、交ぜれば碎けます。骨は勿論注意して能く取除けねばなりませぬ。是れは岡山の名物料理と申す事ですが、皆樣も、とくより御存じかも知れません、唯思ひついたまゝを報知します。各地の方々より、續々御報知になッて、珍らしい料理を御見せ下さいまし。

(三)はり〱大根　高知縣某　報知

先づ大根の皮を去り、厚さ一分位の短冊形に切り、大鍋に入れ、小柄杓に半分位の水と、五つゆ程の油と、醬油を見計らひて、よきほどに入れて、かきまぜながらいりつくるなり。右は當地にて冬期之を食すれば、身躰あたゝまるとて專ら料理す、存外にあぢはひよきものなり。

(四)蓮根のあへ物　越後長岡愛讀者報知

蓮根の皮をむき、薄く斜に切りまして、酢と味醂とで煮て置きます。別に鱈の子を、酒に砂糖を少し入れて煮まして、ばら〱にして、其酢蓮根に、くるみます。是れは酒の肴にも飯の菜にもなります。こんな物は、皆樣がとうに御存じでせうが、一寸味ひよき物で在いますから、召し上ッて御らん遊ばせ。

(五)酢獨活　京都某　報知

獨活を一皮去り、亂に切りまして、酢と白砂糖と、鹽と少々加へて、ざッと若煮にして、其儘硝子罎に入れて置きますと、隨分幾日も持ちまして、酒をめし上る客のある時、一寸付き出しものに早速の間に合ひ、簡便でよろしいもので御座います。其是れは去る頃、東京の方に馳走になりまして、其節こしらへ方を敎はりましたので、御存じの方も澤山御座いませうが、當地では珍らしく賞味しますから、未だ御存じなき會員の姉君達は、一度御試み遊ばされませ。

◎童話　海軍大尉　長尾耕作

○私が食べてよ　太郎は母に貰ッた蜜柑を食べて濟むと、母の處に行きまして「お母さん蜜柑を下さい」と申しました。母は「食堂に幾つ殘ッてゐるか數へてお出でなさい」と命じますと、太郎は「三あります」と復命しました。母「三とな、そんなら一はお父さんがめしあがるの、一はお母さんの、一ッはお前の、それでお前には一を上げるよ」とて、一を與へました。太郎は暫して又母の處へ來まして「お母さん蜜柑下さいな」と頻りに母にせがみます。母「太郎や食堂には幾つ殘ッてゐましたかネー」太郎「二ですよ一はお父さんの、一はアタイの、お母さん下さいな」母は眼を圓くして「おや〱お母さんのはどこに在のです」太郎「それは今アタイが食べてよ」。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宮廷錄事

●大阪行幸御發輦期　大阪なる第五回內國勸業博覽會開會式は、四月五六日を以て舉行さるゝ由にて、其當日は行幸を請願し奉る筈なるが、多分東京御發輦は同月一二日頃にて、途中名古屋離宮に御一泊、翌日大阪御着輦、行在所は第四師團司令部(大阪離宮)と定めさせられ、先づ博覽會の開會式に臨幸あり、次に神戶なる觀艦式に臨ませらるべしと承る。

●福田會育兒院へ御恩賜　至仁至慈なる皇后陛下には寒氣の砌在育兒院兒童苦寒の狀況を思召され双子縞、木綿裏地各九十三反づゝ及び之が裁縫料として金四拾六圓五拾錢を添へ去にし一月十五日香川皇后宮太夫を經て御下賜相成りたり。

●特別大演習　今秋御舉行の大演習の位置は、兵庫縣下・廣島縣下の二縣に跨り、其參與の師團は、第五第十第十一師團なりと云ふ。

●東伏見宮稱號允可　小松宮依仁親王殿下は今般東伏見宮の稱號を允可せられたるが、東伏見宮と申し奉るは、今の小松宮彰仁親王殿下の前御稱號なりしを、今回御繼嗣たりし依仁親王に賜りたるものにして、東伏見宮妃殿下は周子殿下と申し奉り岩倉公爵の第一女におはし、明治九年八月二十九日の御誕生なり。尙又同御殿は、芝區高輪南町なり。

●故北白川宮能久親王殿下銅像除幕式　同宮銅像は、竹橋門內なる近衞第一聯隊正門前に建設せられ、去月廿八日除幕式を行はれたるが、各皇族方を始め奉り多數の陸海軍將校方參列あり、嚴肅に式を擧げられたり。

●北白川姫宮の御降嫁　北白川宮第二女王貞子殿下には、去にし六日、有馬伯爵家に御降嫁相成りたるが、伯爵令嗣頼寧氏と共に舊藩地久留米市へ旅行せらるゝ豫定のよし。

愛國婦人會記事

●評議員會　本月中の評議員會は左の日割の通り開會す。

二月十八日（第三水曜日）　第一の組

二月廿五日（第四水曜日）　第二の組

●大會準備委員會　同會は去月廿八日第四水曜日午後一時より本部に於て第一協議會を開けり。來會者は千家俊子・濱尾作子・柳谷千代子・松平須磨子・中山幸子・高木鎌子・山脇房子・伊集院繁子・相馬陸子・島田信子・仁杉歌子の諸夫人にして、大會の時日・場所・餘興其他の方法につき、詳細なる協議を爲し、午後五時過ぎ散會せり。

●評議員の增加　今般會長より左の諸夫人を評議員に推薦ありたり。

陸軍少將稅所篤文夫人　稅所エイ子
陸軍少將神尾光臣夫人　神尾松子
男爵上田龜次郎夫人　上田タチ子
陸軍軍醫監藤田嗣章夫人　藤田シゲ子
廣島控訴院檢事長矢野茂夫人　矢野ミエ子
男爵水谷川忠起夫人　水谷川堯子

寫眞附錄の人名（寫眞面の順序）

松下憲　各取照子　佐々木壽美子　奥村五百子　野村ゆう子　張祥子　中島友足　中村管二郎
小野木道子　後藤町子　深野次子　寺島龜代子　片野すゞ子　藤田さく子

●奈良支部幹事會　同支部に於ては、此程春日公園菊水樓に於て、幹事會を開き、昨年內の會務報告、今後の會員募集方法等に就いて協議したる末、寺原松子・楯石梅子等斡旋して、晩餐の饗應をなしたりと云ふ。

●熊本支部の景況　同支部が益々盛況に向ふ事は、堀內少佐の寄書によりても明なるが、(同少佐の文中、縣廳兵事係其外諸君の厚き補助により云々とありしが、同會の事務は專ら知事官房の河山屬と德永氏との兩人にて擔當盡力せらるゝよし、同支部より申込ありたり。)尙同支部に於ては、明治三十五年會費の內四百圓を、昨年五月七月の兩度に、東京本部に送金し、今回尙昨年分の殘金七百九拾八圓餘を送金せしが、明治三十四年六月熊本支部創立以來の送金高を合算すれば、實に其高千四百三十七圓餘の多きに及びたりと云ふ。又同支部に於ては、目下戰死者遺族取調中にて、取調濟の上は、救助金交附方を本部に上申する都合なるが、同縣管內の戰死者遺族の數は二百八十餘名あるよし。

●堀內相談役の歸朝　本會相談役堀內陸軍少佐は、舊臘參謀本部の命を受け、清國に赴きしが、客月卅一日歸朝せり。

◎奥村刀自遊說日記（つゞき）

十二月十九日　午前八時半高松市樋口幹事邸を發し大川郡に向ふ、木田郡長令孃及び幹事石塚千賀子氏は同邸に出迎はれ、福田縣屬は案內者として出張、同行せられ、沼澤くに子柏原とし子の兩幹事は木田郡役所々在地迄見送られたり。同役所にて少憩、明日開會準備の件を協議し、了ッて再び乘車し兩幹事と別れ、大川郡に向ひ、郡境に出迎はれたる村上大川郡長同夫人佐與子會員西山喜代子等十數名と共に會場たる寒川高等小學校に到着。晝餐の後午後一時開會す、聽衆七百餘名にして、五六里の遠きより參集したる者百を下らず。即時五十餘名の入會者あり、此夜郡長の旅館に止宿す。西山署長の注意により巡査二名旅館を警備す。

同　廿日　午前十時旅館を發す、出迎ひの石塚木田郡長及び幹事石塚千賀子兩氏を先導とし、大川郡幹事村上佐與子會員田中ちか子氏等と同行。十時四十分大字池戶西德寺の會場に到る、村上郡長西山署長仝夫人等十數名郡界迄見送られたり。晝餐後零時四十五分石塚木田郡長刀自を紹介し、小野田知事より木田郡鹿庭村孝女鎌倉しかへ下賜せられたる褒狀を朗讀す、聽く者感嘆せざるなし。次で幹事牧塚いち子氏は婦人の義務と題して演說し、了ッて刀自の演說あり、聽衆約千二百名即時入會者數名ありき。同三時五十分會場を發す、石塚幹事外數名郡境迄見送られたり、同五時高松市樋口邸に入る。

同　廿一日　午前八時樋口邸を發し、幹事長小野田安子、幹事黑河內すい子長町たけ子會員福田ふじ子氏等と共に警察署警邏船屋島丸に搭じ、同九時四十分小豆郡土庄港に着す、中島小豆郡長、幹事中島萬龜子松本なみ子及び會員有志家拾餘名出迎はれ、同島有志家井上文八郎氏邸にて午餐を供せられたり。午後一時十五分土庄高等小學校にて開會、同三時閉會の後有志家大森辨藏氏の饗應に應じ、同四時屋島丸に搭じ高松に歸着せしは六時なりき。小野田幹事長は直に一行を自邸に招き晩餐を供せられたり。此夜樋口邸に止宿す。

同　廿二日　午前八時樋口邸を發し高松停車場に到る、小野田幹事長近藤香川郡長高木長町柏原近藤の各幹事及び會員有志家數十名見送られ、幹事長代理小野田元辰氏及び黑河內沼澤赤堀の各幹事と共に綾歌郡坂出に向ふ、稻葉同郡長及び夫人は高松市迄出迎はれたり、同九時二十分坂出驛に下車す。會員及び有志家數十名の出迎ひあり、直に會場阪出ホテルに至り、同十時綾歌郡會員總會を開き幹事及び會員の祝詞あり、稻葉幹事の紹介にて刀自は總會に對する所感を述べ、了りて一同退散す。同十一時より再び講話す、聽衆約千人即時入會者三十餘名ありき。同三時廿三分同地を發す、會員及び郡役所員警官等數十名停車場迄見送られたり。稻葉郡長同夫人及び黑河內赤堀兩幹事等丸龜迄見送られ、同三時四十分丸龜驛に着す、新山聯隊長以下將校數名及び神尾評議員新山野崎中村の各幹事中村赤十字社支部幹事並に同特志看護婦十數名の出迎ひあり、直に旅館たる看護婦養成處に入る。

同　廿三日　午后二時同市善龍寺に於て開會、中村赤十字社支部幹事の勸誘演說に次ぎ、刀自は豐田市長に紹介せられて講話す、聽衆一千二百餘名即時入會者三十餘名あり、同五時半閉會、次て新山聯隊長夫人の案內にて、偕行社分社に於て茶菓の饗應あり。各幹事並に將校夫人諸氏斡旋せられたり。

同　廿四日　午前八時四十二分一行は多數の會員有志者等に見送られ、丸龜市幹事新山まさ子中村くに子松崎縫子會員香渡くま子高松市幹事沼澤くに子赤堀せい子諸氏同乘して丸龜驛を發し、同九時半琴平驛に着す、仲多度郡幹事琴陵瑞枝子外會員有志者等十數名の出迎あり、直に金刀比羅宮崇敬講社本部に到り、休憩後金刀比羅宮に參拜し社務所に於て琴陵幹事より晝餐を供せられ、午后一時半より同社殿廣間に於て開會、松崎仲多度郡長の熱心なる演說に次で刀自演說す、聽衆一千八百餘名即時入會者三十餘名ありき。同五時閉會此夜金刀比羅宮神事場に投宿す、琴陵幹事終始斡旋せられたり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

◎女子高等師範學校國語體操科　同校にては今回新に私費國語體操專修科を設置し、主として高等女學校に於ける國語體操科の教員を養成せんとして生徒募集に着手せしが、募集人員は三十名にして、入學志望者は品行方正身體健全にして修業年限四ヶ年の官公立高等女學校卒業生若くは之と同等の學力を有し年齡十七年以上三十年未滿にして夫を有せざるものに限る由にて、本年三月二十日までに願書を差出せば、四月上旬試驗の上入學を許可せらるべしといふ。

◎東京音樂學校　同校募集の甲種師範科生徒の入學願書期日は、三月二十日迄に延期されたるが目下同校に願書を出せし者は卅餘名あるよしなり。

◎日本女子大學校　同校にては本年四月新學期開始につき、各本科一年級及付屬高等女學校一年級より五年級まで、入學を許すよし、尙同校には目下校舍及寮舍增築計畫中なりと云ふ。

◎東京府第一高等女學校　淺草七軒町へ新築移轉せし同校は、目下生徒募集中にて、各學年へ入學を許す趣きなるが、願書差出期限は三月二十日限りなりと云ふ。

◎東京府女子師範學校　小石川區なる同校にては、本年四月入學せしむべき一學年生徒六十名を募集するよし。

◎女子美術學校　本鄉なる同校にては、先般横井女史を失ひたる後は、學監及び寄宿舍等の監督は專ら佐藤靜子夫人自ら其任に當られ、日々登校し居らるゝよし。

◎體操學校女子部　此程文部大臣より認可せられ、四月始めより授業を爲すよしにて、其修業期は一ヶ年なりと云ふ。

◎成女學校　同校には家事科講習會の第二期生を募集し、本月始めより授業するよしなるが、學科は高等女學校以上の程度にて、倫理・國語・敎育・心理・家事衞生・法制經濟等の學科を敎授するよし。尙同校料理講習會にては、本月四月より春期講習會を開きしよし。

◎日本淑女學校　同校は昨年以來本鄉千駄木町に建築工事中なるが、最早大部の工事も進行し、來る四月初旬開校するよし。

◎帝國婦人協會附屬學校擴張に付ての園遊會　下田歌子女史が設立に係る帝國婦人協會附屬學校擴張の爲に、華族女學校卒業生其他女史が薰陶を受けられたる婦人方百六十餘名の發企にて、來ん三月七八兩日を期し、築地なる海軍水交社に於て、いと盛んなる慈善園遊會を催さるゝ由、今其趣意書と、當日の餘興次第書とを得たれば左にかかぐ。

華族女學校學監下田歌子女史の設立に係る帝國婦人協會附屬學校は設立後未だ數年ならざるに日に月に隆盛に趣き從來の校舍狹隘を告ぐるに至り目下中澁谷に新築中なり抑我國武家專政以前は女子の教育甚だ盛なりしに戰亂打ち續きてより此方漸々退步委縮して遂にまた昔時の影をだにとゞめずなりしが明治の聖代に遇ひて其儼然是が復活の運に趣きしも如何せん百事急激なる變遷に伴ひ其弊の生ずるを免れず爲めに屢々頓挫しつゝ有りしに此四五年以降漸々女子教育の步調も整ひ世間父母て其必要を感ずるに至りしからに公私女學校の不足を告げ就學を熱望せる多數の女子等徒らに其器を磨くに所無きを歎くの有樣に至りき女史大に爰に見る處あり去る明治三十一年の冬帝國婦人協會なるものを設立し先づよりに有志の婦人を集め每月一回集會せしめて家政及び家庭教育等其他有益なる講話會を開き雜誌をさへに發行して其智識交換を謀ると共について二つの附屬學校を開始せられたり即ち實踐女學校にして高等小學を卒へたるものに尙普通の教育を施し殊に家事を實踐せしめ婦行の實習を主として賢母良妻たるの資格を備へしむるを目的とせらる一は即ち女子工藝學校にして女子に自活の路を得しむるために各種の技藝を學ばしむる等現今の婦人社會を裨益する誠に大なりとす然るに費用の點よりして僅かに今は現在の生徒を入るゝ迄第一期の校舍を新築するのみに止まること實に我等同胞姉妹の爲め延いては日本國の進步上深く遺憾に感ずるが故に多年同女史の教を受けたる華族女學校卒業生及び同門出身の女子寄りて來る三月七日八日の兩日築地水交社に於て園遊會を催し餘興として別紙次第書の通り各自之を演じ其切符の賣上高と有志の人の隨意寄附金とを以て更に校運の擴張を助け二十年の久敷慈母の如き愛育教養を受けたる師恩に報い且は聊か社會に貢獻せんとす依て女子問題に同情をよせらるゝ方々は國の內外を問はず此擧に賛して當日同所へ續々來園の榮を給はゞ幸い甚しからん

發起人一同

餘興次第書

第一日、第二日共に同樣

海軍々樂隊　謠曲

歷史的人物假裝　琴(山田 生田)三曲 舞　ピヤノ

繪細工物短冊等(當日特に寄附したる方々は隨意お持ちかへりの事)　茶菓の饗應

歷史的人物假裝番組(發起人方自演)

第一日

上古

一 橘妙媛父を追ふ所

藤氏隆盛時代

二 清少納言捲簾の所

鎌倉時代

三 尼將軍簾中に訴訟をきくところ

南北朝時代

四 楠公夫人子を諫る所

戰國時代

五 奧村

六 秋色女櫻を詠する所

明治時代

七 女生徒運動

第二日

上古

一 大葉子領巾ふる所

藤氏隆盛時代

二 赤染右衞門夫の文章に助言する所

鎌倉時代

三 松下禪尼障子の破れを繕ふ所

南北時代

四 伊賀局松の木を根引して橋と爲す所

戰國時代

五 山内一豐の夫人鏡匣の金を夫にさゝぐる所

德川時代

六 春日局

明治時代

七 女生徒運動ダンス

◎中島歌子女史の逝去　明治の女學者として歌道國文に堪能なりし同女史は病氣中の處去にし卅一日逝去せり、これより先き女史危篤の事天聽に達するや破格の恩典を以て從七位に敍せられたり。今女史の經歷を聞くに、女史は天保十二年十二月十日日本橋北鞘町に生れ、文久元年に水戶藩士林忠右衞門に嫁しぬ。氏は勤王家にして下野國に戰死を遂げしが女史も反對黨のために捕へられて獄に在る事數月なりしが毫も憂ふる所なく放免後加藤千波を師となし爾來歌道に盡す事三十餘年金枝玉葉の方々を始め顯門高貴の子女を薰陶する事千餘名の多きに及び數年前より女子大學校に聘せられ國文科に敎鞭を取られたるが病俄かに革り遂に白玉樓上の人となれり。葬儀は去にし二日谷中天王寺にて營まれたるが喪主は養子庸氏にして(當年十二歲)會葬者の重なるものは華族諸氏の代理を始め高田早苗氏寺尾亨氏及び女子大學生徒一同等にして午後二時過ぎ谷中に着棺するや加茂宮司祭文を讀み大日本歌道奬勵會長及び女子大學生徒總代の弔詞ありて靜肅に儀式を了りたり。

◎大日本歌道奬勵會　同會は歌學を奬勵し歌人相互の交誼を厚うする目的を以て此程設立せられたるものなるが總裁は久我從一位、會長は鍋島侯爵にして會員は何人にても入會する事を得、每月宮中月次御歌會兼題を詠むとし且つ每年一回臨時大會を開き又臨時研究會を開くよしにて東京の本部は神宮奉齋會本院內に置かれたり。

◎熊本の貧兒寮　同寮は明治廿五年四月塘林虎五郞氏が辛苦經營の結果に成りしものにして、目今益々盛大に趣きつゝある由なるが同寮にては一面に手工等の實業を授け一面には普通の學術を授け居る由、而して創立以來敎育せし兒童は五百四十六名にして、夜間通學のみをなしゝもの三百四十五名に達し卒業生は陸海軍人、新聞記者、縣立學校生或は渡韓生渡米生等ありと云ふ。尙ほ氏の此擧既に天聽に達したりと聞く、氏の榮亦大なりと謂ふべし。

◎大日本婦人衞生會　同會にては去にし七日午後一時より虎の門內東京女學館講堂に於て開會、醫學博士三宅秀氏の家庭看護法、及びミス、スマートの講演ありたり。

◎鹿兒島婦人會　同市にては是れ迄婦人會の設立なかりしが、此程有志婦人等の發企にて新たに鹿兒島婦人會なるものを創立し、同市に歸臥中なる樺山伯爵夫人及千頭知事夫人を始め熱心盡力せられ、第一回相談會を樺山伯爵邸に開きたるが、其主旨は質素勤儉の美風を普及せしむると共に、互に交際して家庭に於ける衞生育兒の方法等をも研究し、臨時必要に應じては、慈善の目的に向ッて助力を與ふるにありと云ふ。

◎大分婦人會　同會は此程同地高等小學校內に開きしが、名士の講話等ありて頗る盛會なりしよし。

◎長野縣小縣壇川婦人會　同會は此程第九回の會合を催したるが、來會者二百餘名あり、名士の演說、唱歌の餘興等ありたり。同會は農閑の際には、每月二回づゝ開會し、一回は料理法作法の實習、一回は名士の演說を聽くことになり居ると云ふ。

◎吾國の富　日本銀行の調査に係る吾國の富の概算は左の如しと云ふ。

土地　七十億圓、鑛業　四億圓、家畜　八千万圓、建物　十九億圓、家具什器　四億圓、鐵道電氣　三億五千万圓、船艦　二億五千万圓、金銀　二億圓、各種事業　三億圓、貯貨物　八億圓、合計百十六億八千万圓、

◎西伯利亞鐵道と歐亞郵便　我遞信省と露國遞信省との間には、西比利亞鐵道完成の上其連絡點を浦潮港にすべきか、旅順港にすべきか目下照會中の由なるが、英國にては郵便物遞送の便宜上より之を利用する傾向あり、現に淸國にて英國宛の信書は海路に依る時は四十四日を費すに反し、陸路を取る時は廿四日乃至廿六日間にして到着すと云ふ。

◎看護婦は此決心なかるべからず　英國の看護婦雜誌は報じて曰く此程東阿に向け出發を命ぜられたる一看護婦あり出發に際して其看護婦長に如何なる物品を携帶すべきかを問ひたるに看護婦長は必ず白き靴下一足を用意すべしと答へたり看護婦は其故を知らず重ねて何故に白き靴下を要するかと問ひたるに其時看護婦長は力ある辭にて埋葬せらるゝ時の用意なりと答へたりと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

在京都帝國大學小林文武君著

愛國婦人會主唱者 奥村五百

全一冊 定價金拾八錢 郵送料金貳錢

特別減價 壹冊金拾貳錢郵税貳錢 但十冊以上は郵税無し

附録 子爵小笠原長生公雄筆の額面を添へ女丈夫奥村五百子全身の寫眞を挿む

東京大阪神奈川兵庫岩手奈良廣嶋山口福岡愛國婦人會支部には本書預置候間就て御購求願上候

京都市出町通桝形上十八番地 木村清司

生徒募集

本校甲種師範科入學願書差出期日ハ本年三月二十日ニ延期シ入學試驗ヲ左ノ通擧行ス

自四月八日 至同十日 自同十三日 至同十四日

讀書 作文 算術 幾何 歴史 地理 理科
體格 國語 英語 唱歌 試問

明治三十六年二月

東京音樂學校

西洋おしろい レデー 煉製及水製

本品ハ芳香馥郁トシテ延ビ艶ノ宜キ事ハ白粉ノ泰斗也

發賣元 東京本郷青木町岩本和泉堂

特約店 東京神田柳原川 小林富次郎

特約店 大阪博勞町二丁目 小林支店

卸部 東京日本橋區長谷川町 美濃磯本店

(み) 誂袴專門

小賣部 東京本郷區本郷五丁目十五番地 美濃磯支店

袴の親玉 男女用

電話浪花二千八百五十九番 電信略号ミイソ

電話本局千四百十五番

高等女學校並に同程度の研學の女子諸君に告ぐ

會長子爵岡部長職君(初號二月三日)通信教授(見本郵券卅錢)

女子學術講義

目下入會に便なり 毎月一回三日 入會金廿錢 會費三ヶ月七十錢 六ヶ月一圓五十錢 一學期(十八ヶ月)四圓五十錢

本會は東京府教育會の附屬として今回新に設立せられ我國女子の學校にて親しく教授を受くる事能はざるものと在校女學生の參考として通信教授の方法を設け高等女學校の學科程度に基き一般女子に必要なる學科目を教授するものなり(質疑用書箋挿入)

講師及學科 修身篠田女子高師教授●國語佐方女子高師教授●地理伊藤高等女學校長●歴史高木第二高等女學校教諭●理科林府立女子師範學校長●家政下田華族女學校學監●裁縫喜多見女子高等師範舍監●作法小笠原日本女子大學講師●兒童心理松本文學士●女子衛生驚山女醫學校長●割烹赤堀日本女子大學講師●其他石版寫眞

尙毎號朝野名家の論説會員其他の投稿に係る作文和歌俳句並に女子の須知を要すべき社會の出來事忠孝貞節に關する義談を載せ且毎學科講義に用ひたる文字術語等稍難解のものには一々注釋を加へて巻末に附する等一種獨特の方法を用ふ

發行所 東京神田一橋通町廿一番地 帝國教育會內 東京府教育會附屬 女子講學會

◎第一巻第九號二月一日發行(毎月一回一日發行)

婦人界

婦人界第九號目次

▲口繪

雪中美人(小林萬吾氏筆彩色石版)▲チャーレス一世の愛兒…小女騎驢…(泰西名畫)▲梅の園▲毛利公母堂安子夫人肖像及筆蹟▲春光▲女子美術學校日本畫科職員及生徒▲改良服裝▲城州長岡天神

●結婚生活……若翁
●結婚に就て……衆議院議員 田健次郎
●子守の選擇 どくとる をふ よひるそもよい……北島亘
●家庭に於ける乳母の地位(下)……文學博士 松本愛重
●他の家庭に於ける妙齢女子の生活(下)……寺田勇吉
●愛の如生賓(下)……森しづか
●黄金の死(お伽はなし)……福田琴月
●乳牛の話(下)……田中宋郎
●素人料理……松廼門生
●アイヌの婦人……女子高師教授 横山榮次

●婦人の半面(四)……蘭雪生
●看護婦會の狀況……濱涯生
●露國の冬……錦港生
●大阪の娘……天眼老人
●流行の袷と羽織(附)羽織の紐●染物の話……柳川春葉
●誕生日(小説)……齋藤弔花
●老子爵の馬車(小説)……中村春雨
●出迎茶屋(小品)……醫學士 町井正路
●梅花女王……文學博士 井上哲次郎
●女子の事業……野田まづま
●勇敢なるエールス婦人……鮮仙學士
●かるた秘訣……與謝野鐵幹
●歌をよむ眼……木崎好尙
●儒家の婦人(一)……作者 小山作之助
●箏曲友ちどり……新保磐次
●源氏物語手引……文學士 佐々醒雪
●枕草紙選註(二)……代詩雜錄等數十篇
●懸賞文歌
●一頁評論

◎定價一冊に付金貳拾錢 郵税貳錢●七冊(郵税共)前金壹圓四十四錢●十四冊(郵税共)前金貳圓七拾八錢

發行所 東京本町 金港堂書籍株式會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

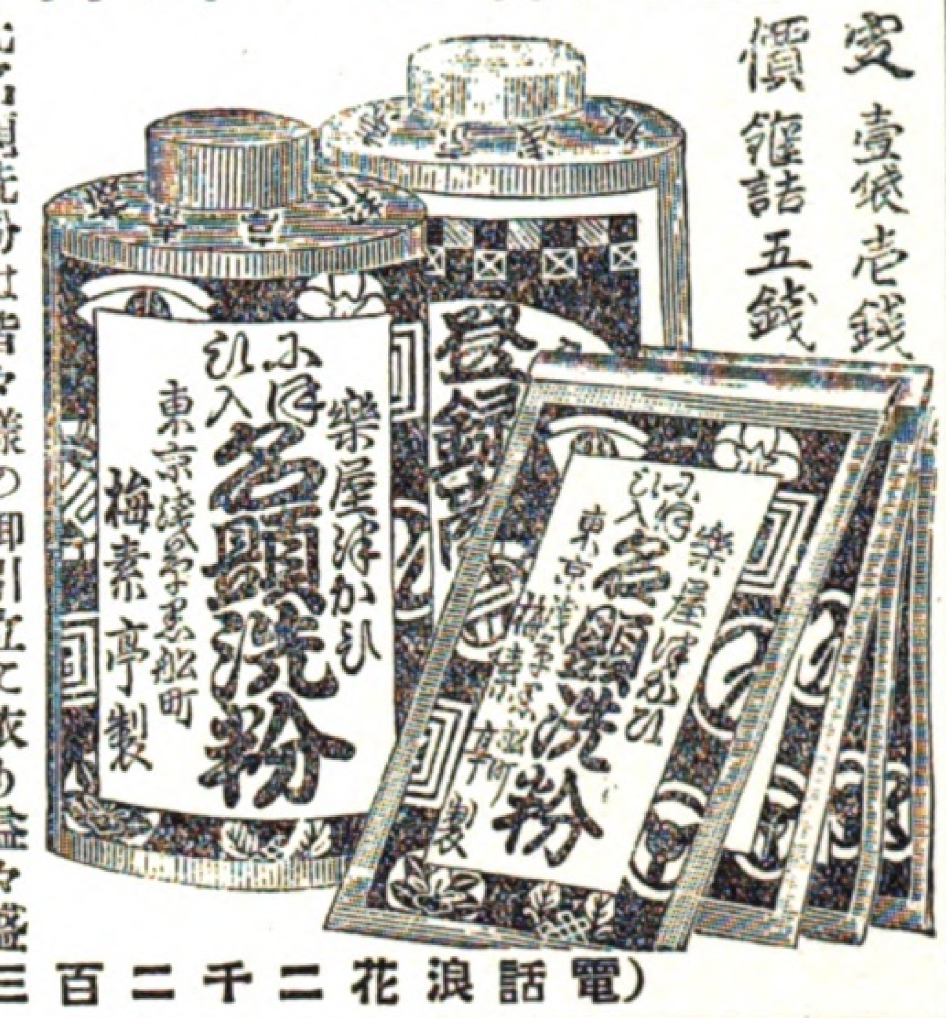
◎特約販賣店

◎東京堂 神田區表神保町三番地

◎東海堂 京橋區銀座四丁目

☞全國有名小間物店にあり☜

壹袋壹錢
價罐詰五錢



此名題洗粉は皆々様の御引立に依り益々盛大に相成難有仕合に奉存候然るに近來諸方に名題洗粉の摸造品澤山顯はれ候に付弊舗製造品には袋の裏面に芝居櫓形の登録商標を相印し御座候間何卒御求の節は篤と御熟覽の上多少に不限御用向の程偏に奉希上候也

東京淺草區黒船町 梅素亭謹製

(電話浪花二千二百三拾四番)

本舖 東京日本橋區横山町十三番 佐野大和堂

目

半ゑり帯揚類 御題摸樣

竹川町十二 發賣元
新橋 電話新橋二〇二七
本舖 ゑり治

東京高等商業學校教授 東奭五郎先生校閲
野原徹輔著述

再版 發行後外の好評を博し今回訂正

實踐 家計簿記

◎全壹册 美麗表裝 正價參拾錢
郵稅四錢(切手一割增)
◎簡易明瞭自在

本書は一家收支の狀態を明かにし家計の整理に資せんが爲めに著はせるものにて、最も簡易明瞭に說明し婦女子と雖も容易に了解するを得せしむ。殊に著者は嘗て知人某の家政改革に際し家計簿記の編成を托せられ之が求に應じて意外の好果を收めたるもの。其實際に適切なるは疑ふべからず。惟ふに家政を整頓して家事經濟の安全を圖るには收支の帳簿を明確にするより急務なるはなし。苟も家を治め產を興さんと欲する者は須からく本書を一讀して速に應用せんことを。本書は實に家庭の繁榮を進むる好伴侶なり。

發兌元 東京麹町區有樂町三丁目一番地 實業之日本社

宮中御歌所寄人 中郡秋香新作
華族女學校講師 小野鵞堂淨書

最新刊 女子消息文の[illegible]

木版半紙摺
無二の美本
定價四十錢
郵稅四錢

本書は中郡秋香先生の新作にして書簡文獨習者の爲めに通俗平易なる實用の文題百餘種を總振がな付にせられたるは他に其比を見ざる處特に小野鵞堂先生が大字に書かれたれば習字の手本として此上もなき良書なり學生諸君は勿論家庭の御婦人方は是非一本を座右に供へられん事を

發兌元 東京市日本橋區箔屋町 前川文榮閣

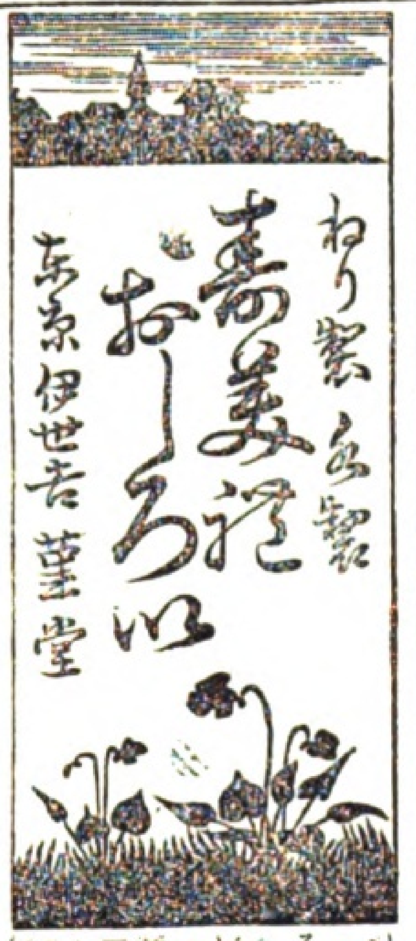
婦人ふるちの藥

定價一貼五錢三貼十四錢五貼廿三錢七貼三十二錢

一此藥劑は婦人血の道一切の藥にして清血を補ひ古血をめぐらすとかんようにして少しも脾胃にさわることなく血を下すにてはなく血をみちびき通ずる藥なり第一月々めぐり少き婦人はたっぷりと見るなり數年古血滯りある婦人は其のふるちのかたまり殘らずつうずるなり◎南まけづつう目まひにより○ふるちとゞこほり○ながち○しらち○手あしひびれ○血しやく○ひゑるときさしこみいたむに功あり○むねこしいたみ○つきむしによし○さんごあとはらのいたみはいかほどつよきいたみにても一ト包にて功あり○さんごわるちのとどこほりに用ひて功あり○猶能書にくわしくしるす

本家製藥所 東京市本所區東兩國横網町一丁目 ㊅ 齒磨店 伊勢吉本店 (電話浪花二七五八)

製造本舖 東京市東兩國横網町一丁目



ねりおしろい 定價 [illegible]瓶二[illegible]錢 小瓶十二錢
水おしろい 定價 大瓶廿五錢 中瓶十五錢 小瓶十錢

定價 綠藍紅彩蝶番ひ鑵詰 六錢五匣 ホツクス入三錢 袋入壹錢

伊勢吉壽美禮堂謹製

大日本女學會發行

をんな

二月十五日發刊

第三卷第二號目次豫告

(卷首筆蹟口繪)御歌會始詠進選歌三女史筆蹟(論說)歐米女子敎育の現況、下田次郎○女子と社會の進運、正木直彥○人種と美術、坪井理學博士(學藝)和書解題、喜田文學士○作文批評、今泉定介○作歌批評、大口鯛二○沙翁梗概、中島孤島○涉史餘話、津田黄昏(修身)處女のしるべ、尾上紫舟○歐洲女德變遷史、本田增次郎(齊家)○點茶、松浦伯爵○家計收支の實況○各地特殊の料理(世務)法制談、岡戶論介○經濟談、伊藤秋南○各地產業の實況、經緯堂主人(史傳)ナポレヲンの母吸江生(譚艸)泰西佳話藤の舍主人(詞藻)○御歌會始披講の歌○田邊和氣子日記○やみび會員詞藻(雜錄)刺繡、木村仲子○同圖案、武村千佐子○婦人論梗概(彙報)內外要報數十件

毎月一回十五日發行
毎號紙數菊版百四十頁
定價金拾五錢全國無遞送料

大賣捌 神田表神保町三 東京堂 京橋銀座四ノ一 東海堂 神田一橋通町七 有斐閣 京橋鎗屋町六ノ一三 北隆館

(登録商標)
佛國大博覽會賞牌受領

賜賞牌 博覽會 東京 東兩國横網町
今古改正 寶香 齒磨
㊅ 伊勢屋吉次郎謹製

東京市日本橋區茅場町貳番地
株式會社 扶桑銀行
電話浪花(八十四番)(百十六番)

松本支店 長野縣東筑摩郡松本町
飯田支店 全縣下伊那郡飯田町
諏訪支店 全縣諏訪郡上諏訪町

資本金貳百萬圓
一定期預金 三ケ月以上 六分五厘 六ケ月以上 六分
一當座預金 日步 壹錢貳厘
一特別當座預金 日步 壹錢五厘

明治三十六年二月十日發行(毎月十日廿五日二回)
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 中島益雄　發行所 大日本女學會內

印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場